

中野区教育ビジョン 教育の目指す姿

- ◆自らの力で道を切り拓く、進取の気概を持っている
- ◆多様性を認め合い、思いやりにあふれている
- ◆公共の精神に基づき、共に社会をつくっている
- ◆家族、わがまち、祖国を愛し、国際社会の中で人とのつながりを大切にしている

教育目標

人権尊重の精神を基盤に、レジリエンスをはぐくみ、
21世紀をよりよく生き抜く力を身に付けるために
○学び合う ○認め合う ○高め合う ○支え合う

※レジリエンス・・・困難に負けない力、回復力、柔軟性、しなやかさ

本年度の基本方針

- 「知」「徳」「体」のバランスのとれた教育の充実
- 一人ひとりを大切に教育の推進
- 自ら考え、学び、行動する人材の育成
- 幼児期からの連続した教育の推進
- 家庭・地域・学校の連携による教育の推進
- 生涯にわたり自分らしく学べる教育の推進

目指す生徒像 ◎明和中学校区CSで育てたい子ども像

- 主体的に学び、対話し、考えを深め、適切に判断して行動できる生徒
- ◎多様性を理解し、互いの立場、考え、良さ、違いを認め合える生徒
- ◎学校・家庭・地域・社会の一員として、自分の役割と責任を考え、ともに支え合える生徒

期待される学校像

- 一人ひとりの能力を最大限に伸ばす学校
- 自己有用感を基盤とした自己肯定感を高める学校
- 安全で安心な学校
- 地域とともにある学校

特色ある教育活動

- 人権教育の一層の推進
- 安全教育の推進
- 学校2020レガシーの継承

多様な人々との関わりを重視

求められる教職員像

- 柔軟性があり、生徒一人ひとりの良さを見出し、引き出し、伸ばすことのできる教職員
- 危機管理意識を高くもち、気付き、行動し、的確に判断できる教職員
- 教育公務員として都民の期待と信頼に応える教職員
- 向上心をもち、絶えず、学び続ける教職員

- 生徒一人ひとりが自身の人権感覚を高めるとともに、いじめや差別等、身近な人権課題の解消に向けて具体的に取り組もうとする意欲や態度をもつ。
- 生徒会本部及び各専門委員会が主体となり、人権について考え、発信し、実践する機会を積極的に設ける。
- 集団の一員として身近な課題に気付き、その解決に向けて話し合い、合意形成を図ろうと努めるとともに、学校生活をよりよくしようとする意欲と実践力を高める。
- SNS学校ルール及び家庭ルールを踏まえ、自身の生活習慣、健康を守るとともに、情報社会において責任ある行動を取れるようにする。
- ICTを活用して、自分の考えを適切に発信する力や情報を整理し分析する力を身に付ける。
- 他国の文化を大切にするとともに、我が国の伝統・文化を尊重し、学び、継承しようとする態度をもつ。
- 目標をもち見直しをもって計画的に学習に取り組むとともに、振り返りを通して課題に気付き改善に努める。
- 朝読書を通じて落ち着いた読書をする習慣を身に付けるとともに、学校図書館の積極的な利用や「中野の100冊」や「明和中の100冊」の読破等を通じて豊かな情操を育み、生涯にわたる読書生活の基盤を作る。
- 社会の出来事に関心をもつとともに、自己理解を深め、「キャリアパスポート」を活用しながら、自分の生き方考え、主体的に進路を選択できるようにする。
- 地域の一員として、地域行事や防災訓練等のボランティア活動に積極的に参加する。
- 放課後学習教室「まなびや」や「スタディルーム なごみ」での学習を通して、学びたい内容を自分で選び、自身のペースで学習することの楽しさを知る。
- 生涯にわたる健康づくりの素地を作るため、食の大切さを知り、運動に親しむ取組を積極的に行うとともに、がんを含めた生活習慣病や感染症等の予防について正しく理解し実践する等、主体的に健康管理に努める。

- 多様な人々との関わりを重視した教育活動を意図的・計画的・系統的に取り入れるとともに、教科等横断的な人権教育年間指導計画を軸としたカリキュラム・マネジメントを行うことで、全ての教育活動において人権教育を推進する。
- 道徳科を要した全ての教育活動において、自己有用感を基盤とした自己肯定感を高め、他者を思いやる心や自他の生命を尊重する態度、社会貢献意識等、持続可能な社会の担い手としての資質や能力を醸成する。
- 様々な教育活動において、「学び合う」「認め合う」「高め合う」「支え合う」場を設けることで、一人ひとりの生徒に自分の居場所を確保させるとともに、「他者との関わりを通じて人は成長する」ことを実感させる。
- 中野区子どもの権利に関する条例を踏まえ、学級活動や生徒会活動、学校行事等において生徒が自分の意見や考え、思いを安心して表明できる場を設定する。
- 毎月の避難訓練や地域の防災訓練等を通して生徒一人ひとりの防災意識と対応力を高め、地域防災の担い手としての資質と能力を育成する。また、毎月の安全指導や帰りの学活における一声指導を通して生活安全・交通安全を充実する。（野方消防署・野方警察署・消防団・中野区役所防災危機管理課等との連携）
- 不登校生徒や特別な支援が必要な生徒に対しては、保護者や関係機関、巡回指導教員、SC等との連携を図りつつ、個別指導及び教育相談を充実する。
- 交流及び協同学習や副籍交流を通して互いを尊重し支え合う態度の育成を図る。
- 中野区いじめ防止等推進条例及び中野区いじめ防止基本方針に基づき、本校の教育理念「一人ひとりの人権と多様性の尊重」の下、学校いじめ対策委員会を中心に、組織的な相談機能及び組織的な相談活動を高め、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決、早期解消を図る。
- 情報モラル教育やSOSの出し方に関する教育を充実することで、ネットいじめや犯罪等の未然防止を図るとともに、保護者や関係機関との連携を強化する。
- 明和中学校区コミュニティ・スクール(CS)としてスクール・コミュニティの実現を目指し、保護者や地域との連携強化を図るとともに、保育園・幼稚園、連携小学校、都立高校、地域人材や資源、包括連携協定を結んでいる企業や大学等の外部機関を活用し、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。
- 学校公開やホームページでの発信を通して、学校教育目標や学校経営方針、教育課程について明確に示すとともに、その具体的取組を家庭や地域と共有する。
- 安全・安心な給食の提供と、健康に生きる上での基本となる食育の充実を図る。
- 公費・私費ともに適時適正な会計処理を実施し、複数対応で会計事故を防ぐ。

- 教職員一人ひとりが生徒の不安や悩み等の早期発見に努めるとともに、組織的なネットワークの下、時期を失することなく課題を共有し、解決策を講じ、即時対応することで、早期解決を目指す。
- 同僚性を基盤とした協働的生徒指導体制を構築し、常に生徒情報を共有するとともに、問題行動が発生した際には、そこに至るまでの背景を踏まえつつ、保護者や関係機関と連携し、早期解決を図る。
- 全教員が子どもを主語とする学習者主体の学びの重要性を常に意識し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学校全体で授業改善に取り組む。（共通の学習過程「個→小集団→全体→個」の展開）
- 学力調査や体力・運動能力調査、意識調査等の結果から共通する課題を見出し、改善策を共有して授業に取り入れることで、基礎・基本の確実な定着を図る。
- AIDリルを活用した個に応じた学習を積極的に取り入れ、個々の学習状況を把握し、個別に指導・助言することで、基礎・基本の定着と学習の個性化を図る。
- 数学の少人数・習熟度別指導や英語の少人数指導を通して、個々の学習状況を把握するとともに、定着度に応じて学習形態や教材、学習進度や速度等を工夫した授業を展開する。
- 「働き方改革関連法」及び「中野区部活動ガイドライン」を遵守し、教職員が心身ともに健康で、生徒一人ひとりに向き合える時間を確保する。
- 教職員の背中を見て、生徒は育つ。全ての基本である「挨拶」を教師自ら励行する。特に接遇（電話対応、来客対応）に留意する。
- 法令や「教職員の服務に関するガイドライン」を踏まえ、体罰や個人情報紛失等の服務事故を絶対に起こさないという意識と行動を徹底する。（机上整理・個人情報の手渡し、複数での書類確認）
- 学校内外の研修を通して、自らの専門性の向上を図る。